

式 辞

本日、晴れて東京農工大学連合農学研究科に入学された皆さん、おめでとうございます。教職員を代表して、心よりお祝い申し上げます。また、今まで支えてこられたご家族はじめ関係各位の方々にも謹んでお慶び申し上げます。一步一步成長していく彼らをこれからも共に応援して下さるようお願いいたします。

本年度新しく仲間入りするのは、生物生産科学専攻二十名、応用生命科学専攻四名、環境資源共生科学専攻七名、農業環境工学専攻七名、農林共生社会科学専攻六名の合計四十四名で、この中には世界六ヶ国からの留学生十二名が含まれています。この四十四名が、それぞれの未来のために助け合い切磋琢磨する仲間となります。研究科修了後も研究や仕事を通じて生涯の付き合いとなる人もいるでしょう。どうぞ良い影響を与え合う関係を築いていってください。

これから皆さんが学ぶこの連合農学研究科は、茨城大学及び宇都宮大学と、大学という枠組みを超えて連携し、各々の研究の特性を活かすと同時に補いつつ、国際色豊かに更に洗練されたより有用な最前線の農学研究へと発展させるために創設されたもので、全国的に見ても例の少ない組織です。今年で設立三十周年となりますが、この特色ある成り立ちによって、他に比べて実効性や専門性がより高い研究を豊かな発想で独自に展開し、またそれを担う人材の育成のために、海外フィールド実習などを含むユニークなカリキュラムをさらに進化させてまいりました。所属する研究者・教員の意識も同様で、皆自主独立と不撓不屈の精神を信条として研究に邁進しています。そして本日からその一員となった皆さん、皆さんもやはり今まで以上に主体性や自立心を求められることとなります。先の見えない難問に行き詰っても、自分の力で解決していかなくてはならないのです。もちろん人に相談するのは構いません。人の意見を聞くことはとても大切です。しかし誰かに答えを教えてもらうことはできません。誰かの答えはあくまでもその人のもので、決して皆さんの答えではないからです。

中国の明の時代の有名な古典のひとつ、『菜根譚』に、次のような言葉があります。

『一苦一楽相磨練極而成福者其福始久』

(一苦一樂して相磨練し、練極まりて福を成すは、その福始めて久し)

一疑一信相參勘勘極而成知者其知始真

(一疑一信して相參勘し、勘極まりて知を成すは、其の知始めて真なり)』

「苦しんだり楽しんだり、一喜一憂しながら鍛錬し、鍛錬を極めて得た幸福は長続きする。疑ったり信じたり、試行錯誤して考え抜いて得た知識は本物となる。」という意味です。本から得ただけの知識は、皆さん自身の知識とはいえません。受験勉強しただけで今はもう忘れてしまった公式や活用のようなもので、本当に皆さんの身につけていないのです。そのような不安定であやふやな知識や経験を元に皆さんの未来を構築していったら、おそらくいつか砂の城のように崩れてしまうでしょう。しかし皆さんが考えて、聞いて、考えて、実験して、また考えて、そうやって苦心してついに学びつかった成果は、皆さんにとって本物、皆さん自身の知識・経験になります。それこそ皆さんの未来を形成していくべき、何があっても崩れ去ってしまうことのないものです。またこれは成果の成否の問題だけではありません。努力に裏打ちされた自信にもつながります。その自信が次の成果を生み出し、皆さんは大きく高く未来を作り上げていくことができるのです。

先程申し述べたとおり、連合農学研究科は非常にユニークな研究科です。異なる大学がそれぞれの特色や背景を活かして、地球規模の視点から持続発展可能な循環型社会を創造するための研究を行い、その牽引力となって人類の共存と福祉にグローバルに貢献する人材を育成するために日々努力をしています。皆さんは、このような研究科だからこそ得られる利点を最大限に活用し、個人個人の特色を大切に、そして何より自分自身の力で試行錯誤しながら、本物の知を手に入れ羽ばたいて行ってください。皆さんには溢れるばかりの潜在的能力と将来性・可能性があります。皆さんの飛躍を心より期待しております。

そして最後にもうひとつ、あたり前のようにですがとても大切なことを申し添えます。学術研究の道は強靱な精神力や忍耐力が必要であると同時に、身体的にも厳しいものになります。健康な心と体がなくては続けることができません。特に地方や海外から来られた方々は、慣れない土地でいろいろと不安なことも多いかと思います。健康に十分留

意して、実り多い大学生活を送ってください。本学もさらに力強く皆さんのバックアップができるよう、あらゆる面で最大限の努力を続けてまいります。本日連合農学研究科へ入学される皆さんが今の気持ちを忘れず夢に向かって大きく成長されることを願い、また皆さんが本学の一員となることにあらためて歓迎の気持ちをお伝えして、式辞とさせていただきます。

平成二十八年四月十一日

東京農工大学長 松永 是